

臺東及花蓮港ノ二廳管内ニハ別ニ律令ヲ以テ定ムル臺灣廳地方費令ヲ施行シ右二廳ノ管轄區域ヲ通シテ廳地方費ヲ設ケ總督之ヲ管理スルモノトシ必要ナル範圍ニ於テ之ニ臺灣州制ノ條項ヲ準用ス

第三 臺灣總督府州知事及臺灣總督府廳長ノ發スル命令ノ罰則ニ關スル件  
本案ハ知事及廳長ノ發スル命令ニ罰則ヲ附スルコトヲ得ル旨ノ規定ニシテ知事ノ

發スル州令ニハ二月以下ノ懲役若ハ禁錮、拘留七十圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則、廳長ノ發スル廳令ニハ現行規定ト同シク拘留又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得シムルモノナリ

第四 文官任用令中改正ノ件

文官任用令第三條ノ二ニハ單純ナル銓衡任用ヲ許ス勅任文官十四種ヲ列舉セリ本案ハ其ノ中臺灣總督府營林局長ヲ削除スルモノニシテ是レ該局官制ヲ廢止スル必

然ノ結果ナリ

第五 奏任文官特別任用令中改正ノ件

奏任文官特別任用令ニハ一定ノ官歴ニ基

キ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得ル官ヲ列

舉セリ今本案ニ於テ(一)同令ニ列舉スル諸

官ノ中臺灣總督府覆審法院書記長ヲ同府

法院書記長ト改ムルハ高等官官等俸給令

ニ掲クル官名ト一致セムカ爲ニレテ畢竟

措辭ノ整理ニ外ナラス(二)右諸官ノ中ニ改

正臺灣總督府地方官官制ヲ以テ新置セラ

レタル郡守、市尹、州理事官、廳理事官、市理事

官及州警視ヲ追加レ(三)曩ニ關東廳官制ヲ

改正シテ新置セラレタル同廳理事官ヲ追

加スルハ此等各官ノ地位及職司ニ考ヘ已

ムヲ得サルノ必要アルニ因ル(四)臺灣總督

府廳事務官ヲ削除スルハ前記改正地方官

官制ニ於テ同官ヲ廢止シタルニ由ル

第六 臺灣總督府蕃務警視特別任用ノ件

臺灣總督府蕃務警視ノ中ニ航空班ヲ統率

レテ理蕃ノ事ニ當ラシムル者ヲ置クノ必



要アリ斯ノ如キ蕃務警視ハ陸軍將校又ハ  
海軍將校ニシテ航空機ニ關スル學識經驗  
ヲ有スル者ノ中ヨリ高等試験委員ノ銓衡  
ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得ルモノ  
トシ此ノ規定ニ依リ陸軍又ハ海軍ノ現役  
將校ヲ任用スル場合ニ於テハ其ノ官等ハ  
高等文官轉任ノ例ニ依ルモノトス  
要スルニ以上六件ノ中最初ノ二件ハ臺灣ニ  
於ケル中央及地方ノ官制ニ關スル重要ナル  
改正ニ屬シ殊ニ地方ノ官制ノ改正ハ今回律

令ヲ以テ始メテ特殊ノ地方制度ヲ實施スル  
ニ伴フモノニシテ其ノ當否ハ深ク省察セサ  
ルヘカラサルコト言フ俟タス先ツ地方官  
制ニ付テ考フルニ臺灣ニ知事ヲ置クコトハ  
既ニ其ノ先例アリ今日ニ於テ復タ之ヲ實行  
スルモ何等支障ナキモノト認ム次ニ律令ニ  
付テ考フルニ州、市、街、庄ハ公法人ナルモ内地  
ノ府、縣、市、町、村トハ大ニ其ノ事情ヲ異ニスル  
所アリ即チ此等ノ團體ノ權力ハ舉ゲテ國ノ  
任命スル長官ノ手中ニ歸シ又協議會ノ設

ルモ其ノ會員ハ總テ官選ニシテ且其ノ權限  
ハ決議ノ權能ニ非スシテ單ニ諮問ニ答申ス  
ルニ過キス殊ニ急施ヲ要スル場合ニハ諮問  
ヲ省略スルコトアリ州、市、街、庄ハ殆ト公共團  
體ト稱シ難キモノニシテ今日此ノ程度ノモ  
ノヲ實施スルハ蓋シ已ムヲ得サル所ナリト  
認ム即チ當局ノ慎重ナル用意ニ依リ其ノ運  
用宜シキヲ制スルニ於テハ克ク地方ノ治績  
ヲ收メテ所期ノ效果ヲ舉クルコトヲ得ヘシ  
知事及廳長ノ發スル命令ノ罰則ニ關スル件

ハ其ノ内容ニ於テ別ニ支障ノ慮ナキモ其ノ  
形式ニ於テ之ヲ地方官官制以外別箇ノ勅令  
ト爲スハ昨年八月臺灣ニ關スル諸件ニ付本  
院ノ決議アリタル所ニ順應セサルヲ以テ右  
先議ノ趣旨ニ從ヒ從來ノ通り諛罰則ノ規定  
ヲ右官制中ニ存置スルコト當然ナリ仍テ前  
記單行勅令案ヲ止メテ其ノ規定ヲ其ノ儘地  
方官官制第六條ニ移シ同條ニ二項ヲ追加ス  
ルコト可ナリト認ム右ノ修正ニ對シ當局ニ  
於テハ直ニ同意ヲ表セラレタリ又官ノ特別



批  
密  
院

任用ニ關スル三件ハ單ニ字句ノ整理ニ過キ  
サルモノアリ又官制ノ改正ニ件ヲ必然ノ結  
果タルモノアリ然ラサルモ己ムヲ得サルノ  
必要ニ基キ別ニ支障ノ慮ナキモノトス  
之ヲ要スルニ前示六件ノ中四件ハ原案ノ儘  
一件ハ上記ノ修正ヲ附レテ之ヲ是認レ一件  
ハ之ヲ廢案トスルコトニ決議セラレ然ルヘ  
キモノト思料ス  
右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス  
二十一番(金子) 余ハ今回提案セラレタル臺灣

ノ官制改革ハ大體原案ノ通りニテ可ナリト  
考フ唯書記官長ノ口頭報告中ニ臺灣總督府  
ノ管轄區域トレテ特ニ澎湖列島ヲ掲ケタル  
モ同島ハ地理上及行政上臺灣ノ一部ト認ム  
ヘキモノナルカ故ニ之ヲ削除ストアリ又報  
告書中ニ澎湖列島ハ地理上臺灣ノ一部ナリ  
ト記載アリ然ルニ下關係約ニハ明ニ臺灣及  
澎湖列島ト書キ別テアリ又外國ノ地理書ニ  
就テ見ルニ二者別物ナリ然ラハ今回斯ノ如  
リ改正スルノ必要ハ果シテ那邊ニ存スルカ當

區  
會  
院

局者ノ説明ヲ請フ

二十二番(未松) 金子顧問官ヨリ提議セラレタ  
ル問題ニ付余モ亦一言セム余ハ進テ之ヲ本  
案ニ對スル修正意見ト為ス考ナリ臺灣及澎  
湖列島ト云フコトハ從來我國ノ官文書ニ慣  
行スル所ニレテ容易ニ變更セラルヘキモノ  
ニ非ス蓋シ我國領有以前支那ノ領土トレテ  
ハ二者正確ニ別物ナリ加之昨年八月本院ニ  
於テ臺灣總督府官制改正案ヲ審議シタル際  
總督ノ權限ニ付原案ニハ單ニ臺灣トアリシ

ヲ之ニテハ澎湖列島ヲ含マズ狹キニ過リト  
ノ理由ヲ以テ總督ノ管轄區域内ト修正レタ  
ルコトアリ今回澎湖列島トアルヲ削ラムト  
スルニ付當局者ニ於テ別段ノ考慮アリトハ  
信セス又書記官長ノ報告ニ於テモ之ヲ以テ  
普通一般ノ事柄ト認メタルモノ如ク即チ  
此ノ改正ニ付テハ別段ノ理由ナク結局從來  
ノ文句カ不要ナリト云フニ歸著スヘシ果  
シテ然ラハ特ニ斯ノ如キ改正ヲ為スノ必要  
ヲ認メ難シ元來法令ニ於ケル用例ト普通氏



間ノ常用語トハ必スシモ一致スルモノニ非  
ス普通民間ノ言ヒ方ヲ直ニ採リテ法令ノ上  
ニ表ハストキハ却テ種々ノ問題ヲ生スルコ  
トアリ法令ニハ故ラニ古體ノ名稱ヲ用フル  
例ナキニアラス要スルニ第一條ノ改正條項  
ハ其ノ必要ナク寧口誤解ヲ生レ易キカ故ニ  
之ヲ否決セムコトヲ希望ス當局ニ於テハ如  
何ナル見解ヲ持セラルルカ

委員(横田)

唯今金子、末松兩顧問官ノ御説ヲ承  
リタルカ當局立案ノ理由ハ從來臺灣ニ關ス

ル各般ノ法令ニ於テ單ニ臺灣ト云ヒテ澎湖  
列島ヲ含マレムルコト一般ノ例ナルカ故ニ  
此ノ例ニ順應セムトスルノ趣旨ニ外ナラス  
レテ地理上澎湖列島カ臺灣ノ一部ナルカ否  
カノ問題ニハ觸レサル積ナリ  
二十一番(金子) 地理上ノ問題ニハ觸レスト云  
フノ意解レ難レ

委員(横田)

地理上ノ問題ニ觸レストハ從來ノ  
法令ニ順應スルノ方面ヨリ見テ本案ノ如ク  
改正セムトスルニ過キスト云フノ意ナリ

二十一番(金子) 其ノ法令ハ如何ナル規程ナル  
カ

委員(横田) 明ニ臺灣ハ澎湖列島ヲ含ムト定メ  
タルモノアルニ非サルモ單ニ臺灣ト云ヒテ  
澎湖列島ヲ込メテ支配スルノ趣旨ナルモノ  
ハ多數アリ

二十二番(末松) 余ハ本案ニ於テ故テニ澎湖列  
島ヲ削リテ他ノ法令ニ順應スルノ必要ナレ  
ト信ス他ノ法令ニ於テ臺灣ト云ヒテ澎湖列  
島ヲ含ムハ其ノ法令ノ解釋ナリ本案ハ當初

立案ノ通リ下關條約ノ文句ヲ承ケテ臺灣及  
澎湖列島ト云フコト可ナリ

委員(田) 唯今法制局長官ヨリ一應原案ノ趣旨  
ヲ説明シタル通り總督府官制ニハ始メヨリ

臺灣及澎湖列島ト書キ別ケタルモ其ノ後、  
立法例ニ依レハ總テ單ニ臺灣ト云ヒテ澎湖  
列島ヲ含マシムルコト一般ノ慣例ナリ若シ  
此ノ慣例ニ屬スル多數ノ法令ニ於テ單ニ臺  
灣ト云フハ澎湖列島ヲ含マスト解スルコト  
ハ一大事ナリ本案ニ於テ澎湖列島ヲ削ルハ



全ノ一般ノ慣例ニ順應セムカ爲ナリ然ラハ澎湖列島ノ支配ハ如何ニスルカト云ハ地  
方官官制ニ於テ總督ニ委任レタル權限ニ基  
キ同島ヲ何レノ州ノ管轄ニ屬セシムルカ  
府令ニテ規定スル積ナリ此ノ府令ハ勅令ノ  
委任ニ依リ勅令ト同一ノ效力ヲ有スルモノ  
ナリ

二十一番 (金子) 余ハ益原案反對ノ必要ヲ感ス  
臺灣總督府官制ニ臺灣及澎湖列島ト明記  
アルカ故ニ他ノ法令ニ於テハ之ニ基キテ單

ニ臺灣ト云ヒテ澎湖列島ヲ含ムノ意ト解ス  
ルコトヲ得ルナリ即チ本官制ハ他ノ法令ノ  
淵源ナリ有效ナル淵源アルカ故ニ支流モ亦  
有效ト爲ル本案ニ於テ其ノ淵源ヲ壅塞セム  
トスルハ不當ナリ

三十二番 (一本) 此ノ問題ニ付テハ唯今ハ討論  
ノ場合ニ非サルカ故ニ一應當局者ト協議シ  
タレ思フニ當局ノ説明ニ理由アリ金子顧問  
官等ノ意見ニモ亦理由ナキニアラス唯本案  
改正ノ結果澎湖列島カ我國ノ版圖ニ屬セサ

ルカノ誤解ヲ生スルトノ心配ハ無用ナリ  
若シ本案カ現行官制ノ全部ノ改正ナラハ字  
句ヲ整理シテ單ニ臺灣ト爲スコト適當ナラ  
ハモ本案ハ一部ノ改正ニ過キサルカ故ニ特  
第一條ヲ改正シテ字句ヲ整理スルノ必要ナ  
レ此ノ點ハ當院ニ於テ修正スル程ノ事ニ非  
サルモ金子、末松ノ兩顧問官ヨリ熱心ナル希  
望アリ當局ニ於テモ同意ヲ表セラレテハ如  
何

委員(横田)

一木顧問官ノ御勸告ハ諒承セリ唯

臺灣ニ於ケル委任立法ノ法律其ノ他ノ法律  
勅令ニ單ニ臺灣トアリテ澎湖列島ヲ支配ス  
ルノ趣旨ナルモノ甚夕多シ此ノ機會ヲ利用  
シテ本案第一條ヲ改正スルコト當局ノ希望  
スル所ナルモ今回ハ一部ノ改正ナルカ故ニ  
之ヲ後日ノ考究ト整理トニ一任シ末松顧問  
官ノ修正說ニ同意スルモ可ナリト考フ

議長(清浦)

始メ二十一番ヨリ質問アリ次ニ二

十二番ヨリ修正意見アリ修正說ハ第二讀會  
ニテ提出セラレハキモノナルモ讀會ノ順序



ヲ省略シテ此ノ際之ヲ提出セラルルモ可ナ  
リ唯修正説ニハ成規ノ賛成者ヲ要ス  
委員(横田)尚念ノ為一言セムニ當局ハ右ノ理  
由ニ依リ此ノ條文ヲ固執スルノ趣旨ナキナ  
リ  
三十二番(一木)當局ニ於テモ快ク同意ヲ表セ  
ラルル趣ナリ形式上本院ニ於テ修正スルコ  
トト為スノ外ナレ余ハ修正説ニ賛成ス  
二十七番(曾我)賛成  
議長(清浦)定規ノ賛成アリ修正案ハ成立セリ

他ニ御議論ナキカ

二十六番(濱尾)今回臺灣ニ於ケル官制ノ改正  
ニ付テハ成ルヘク内地ノ制ニ近カラシムル  
趣旨ナルカ又或ハ島内ニハ多數ノ舊支那人  
居住セルカ故ニ支那ノ舊慣ニ鑑ミ彼等ノ感  
觸ヲ良カラシムル様仕組ム趣旨ナルカ一例  
ヲ舉クレハ今回各地ニ知事ヲ置リコトニハ  
異議ナキモ以前ハ其ノ管内ヲ縣ト稱シタル  
ニ今回ハ之ヲ明ト稱ス州ハ國ニ通ス寧口縣  
郡ト云フ慣用語ヲ用フルコト可ナラサルカ

郡長ヲ郡守、市長ヲ市尹ト云フハ施政上何事  
カ都合ヨキ事情アルカ尚又北海道ノ施政ニ  
付テハ將來如何ナル方針ヲ採ラルルカ當局  
ノ所見ヲ承リタシ

委員(田) 今回臺灣ノ地方官官制改正ノ要項ハ  
先刻ニ上書記官長ヨリ報告アリタルモ其ノ  
際濱尾顧問官ニハ御出席ナカリシニ付重不  
ラ其ノ概要ヲ申述クヘシ  
從來島内ニ於ケル地方ノ行政ハ町村ノ未ニ  
至ル迄總督府ニ於テ之ヲ管理シ其ノ間ニ法

人格ヲ有スル地方團體アルニ非ス然ルニ領  
臺以來二十五年間歴代經營ノ效果漸ク現ハ  
レ一般ノ民度著シク進境ヲ呈シ各地ニ公學  
校及小學校アリ進テ中等程度ノ諸學校アリ  
一々之ヲ本府ニ於テ管理スルコトハ事實不  
可能ナリ又國道ハ本府之ヲ管理スルモ地方  
ノ道路ハ地方ノ公共團體ヲシテ之ヲ管理セ  
シムルコト當然ナリ其ノ他諸般ノ事務モ亦  
之ニ準シテ中央ト地方トノ間ニ分配セサル  
ヘカラス然ルニ今日地方ノ事務ハ主トシテ



警察官力之ヲ擔任セル實況ニシテ今日ノ狀  
態ニ於テハ施政上到底今日以上ノ進歩ヲ期  
待スルコト能ハス即チ町村ノ事務ハ町村ヲ  
レテ自ラ之ヲ擔當セシメテ始メテ地方諸  
般ノ行政周到ナルコトヲ得ヘク今回ノ改正  
ハ畢竟此ノ趣旨ニ依リテ計畫セラレタルモ  
ノナリ  
州等ノ名稱ニ付テハ種々考究ノ結果大體舊  
慣ニ依リタリ朝鮮ニ於ケル道郡面ハ何レモ  
舊慣ノ名稱ナリ臺灣ニハ往年縣ヲ置キタル

コトアルモ支那ニテハ縣ハ郡ニ當リ小ニ過  
ケルノ感アリ固ヨリ必ス州トスヘシト云フ  
絶對ノ理由アルニ非サルモ何分臺灣ハ福建  
ト一葦帶水ノ關係ニ在リ對岸ニ於テハ縣ハ  
小ニシテ州ハ大ナルノ觀念アルカ故ニ今回  
ハ州トシタル次第ナリ又街庄ハ町村トスル  
方可ナラムトノ説アリシモ街庄ハ多年ノ慣  
行ニ依リ馴染アル名稱ナルカ故ニ今回之ヲ  
襲用セリ其ノ他名稱ノ問題ハ總テ同一ニシ  
テ何レモ絶對ノ理由アルニ非ス主トシテ舊

慣ニ依リタルモノナリ

五番(原)

濱尾顧問官ヨリ北海道ノ施政方針ニ

付御質問アリタルカ北海道ハ臺灣ト異ナリ

殆ト内地ト同様ニシテ寧口大縣ト云フ方適

當ナリ此ノ方針ニシテ統治スルコト可ナリ

ト考フ

乍序臺灣總督府官制第一條ニ澎湖列島ヲ加

フルカ加ヘサルカハ實際何レニテモ可ナリ

原案ニテモ誤解ヲ生スルノ虞アリトハ思ハ

レサルモサリトテ修正案ニテモ差支ナレ唯

何レノ日ニカ總テノ法文ヲ一定セムコトヲ

希望ス

二十二番(末松)

今回ノ御諮詢案ノ全體ニ互リ

テ一言シタシ各案ニ付詳細ニ考究スレハ隨

分論議ノ餘地アルヘク殊ニ臺灣ニ於ケル地

方自治制度ノ如キハ果シテ妥當ナルカ否カ

ハ大ニ議論ノ存スル所ナルヘシ此ノ點ニ付

テハ律令カ根本ニシテ官制ハ其ノ支葉ナル

ニ本院ニ對シテハ支葉タル官制ノ御諮詢ア

リテ根本タル律令ノ御諮詢ナキハ形式上寧



口奇妙ノ現象ニシテ斯ノ如キハ法案ノ取扱  
上ヨリ生シタル弊害ト云フヲ得ヘシ此ノ關  
係ニ付テハ將來一定ノ工夫アルヘキモノト  
考フ之ハ別論トシテ今回御諮詢ノ各案ハ大  
體書記官長報告ノ通りニテ可ナリ各自ノ意  
見ヲ一々吐露スレハ州縣ノ名稱ノ如キニ付  
テモ多少ノ見解ナキニアラサルモ此等ハ逐  
一言及スルノ必要ナカルヘシ即チ書記官長  
ノ修正アルモノヲ原案トシテ採決セラレ然  
ルヘク其ノ前第一條ノ別修正ニ付採決セラ

レムコトヲ希望ス

議長(清浦) 二十二番發議ノ修正案ノ形式ハ如  
何

二十二番(末松) 第一條ノ原案ヲ削除スレハ可

ナリ其ノ結果同條ハ現行ノ通りト爲ルナリ  
若シ他ニ影響スル點アラハ然ルヘク整理セ  
ラレタレ

二十一番(金子) 本條ノ改正ヲ止メ現在ノ通り  
据置カムトスルナリ

五番(原) 金子、末松、一木ノ各顧問官ヨリ御發議

機密 階級

アリ余ハ何レヲモ主張スルニ非サルモ澎湖  
列島ヲ削リタリトテ同島カ日本ノ管轄ヲ離  
レタリト云フカ如キ誤解ヲ生スルノ虞ナシ  
現行ノ通り据置クコトニ必スレモ反對セサ  
ルモ又之ヲ改正スルニ付何等ノ異論ナシ唯  
法文トシテハ本條ニ澎湖列島ヲ存スルトキ  
ハ他ノ條項ニモ同様澎湖列島ヲ加フヘシト  
云フカ如キ問題ヲ生スヘシ既ニ法律ニモ單  
ニ臺灣ト云ヒテ澎湖列島ヲ含マシムルノ趣  
旨ナルモノ多数アリ各位ノ御一考ヲ請フ所

詮何レノ日ニカ法文ノ整理ヲ要ス若シ御同  
意カ得ラレルヲハ原案ノ通過セムコトヲ  
希望ス

三十四番(富井) 余ハ本湖ニ付テハ原案可ナリ

ト考フ惟フニ本官制制定ノ當時ニ於テハ未  
夕文例一定セサリシナリ其ノ後種々ノ立法  
アリ其ノ法律勅令ニハ單ニ臺灣ト書キテ澎  
湖列島ヲ含マシムルノ意ナリ故ニ本條ノ字  
句ハ強テ今日ニハ限ラサルモ早晚整理ヲ要  
ス余ハ文例統一ノ為原案ヲ可トスルモノナ

五 百 七



り

議長(清浦) 修正案提出者ニ確ノ夕キ事アリ本

條修正ノ結果地方官官制第一條臺灣ニ左ノ

州及廳ヲ置クトアル所ニ矢張り澎湖列島ヲ

加フルノ必要アルニ非サルカ然ラサレハ彼

此鈞合ヲ得サルノ嫌アリ

二十二番(未松) 余ノ考ニテハ各條ニ一々明記

スルニハ及ハス唯始ノニ之ヲ明記シ置ケハ

可ナリ

三十八番(有松) 余ハ先刻來混雜ヲ避クル為態

ト差控ヘ居リタルカ唯今更ニ他ノ修正說出

テ事理稍錯雜セルカ如レ余ハ新ニ修正説ヲ

提出スルニ非サルモ修正説提出者及當局ニ

相談シ夕キ事アリ法律上ヨリ云ハ、今回ノ

提案ハ前例ニ鑑ミ敢テ差支ナキカ如キモ又

一面地理上特ニ澎湖列島トアルニ拘ラス之

ヲ削ルトキハ金子顧問官ノ述ヘラルルカ如

キ疑問ヲ生スルノ余地ナキニレモアラス更

ニ又他ノ諸法令ノ例ヨリ云ハ、何レノ日ニ

カ之ヲ整理スルノ必要アリ即チ富井顧問官

機密

ノ御説竝ニ當局立案ノ趣旨ニモ亦固ヨリ  
由ナキニアラス仍テ何レノ意見ニモ抵觸セ  
サル案アラハ御考慮ヲ請ヒタシ試ニ早見ヲ  
申述フレハ第一條第三項ニ澎湖列島ハ臺灣  
ノ一部ト看做スト云フカ如キ條項ヲ加フル  
トキハ他ノ法令ノ適用上些ノ支障ナク又地  
方官官制ニ手ヲ出タスノ必要ナシ此ノ案ニ  
付御一考ヲ請フ

五番(原) 唯今有松顧問官ノ御説アリ其ノ御趣

旨ニハ別段異論ナキモ本来原案ニ臺灣ト云

フハ澎湖列島ヲ含ムノ意ニシテ畢竟從來臺  
灣及澎湖列島ト云ヒレヲ本案ニ於テ臺灣ト  
改稱スルニ過キサレナリ

三十六番(平山) 此ノ問題ハ何レニテモ可ナル

モ原案ニテ可ナリ歴史上及地理上澎湖列島  
ハ臺灣ニ屬セサリレカ故ニ領臺當時ニ於テ  
ハ之ヲ書キ列クルノ必要アリレナリ然ルニ

其ノ後二十余年ヲ經今日ニ於テハ一般ニ臺  
灣ト澎湖列島トヲ一所ニ考フルカ故ニ今日  
ニ在リテハ之ヲ書キ別クルノ必要ナシ仍テ



余ハ原案ニテ可ナリト考フ

二十六番(瀨尾) 單ニ臺灣ト云フトキハ澎湖列

島ヲ除クノ疑アリ原案ノ通り「澎湖列島」ヲ

削ル代ハリニ「臺灣」ノ下ニ「澎湖列島」トノ註ヲ

加ヘテハ如何

委員(横田) 當局ハ一木顧問官所説ノ如ク本案

ヲ現行ノ儘トシ其ノ整理ヲ将来ノ考慮ニ附

スルコトニハ格別異議ナキモ更ニ總理大臣

ヨリ言明アリ又有松瀨尾ノ兩顧問官ヨリノ

御意見アルモ從來既ニ各種ノ法令ニ於テ自

然ノ間ニ臺灣ト云ヒテ澎湖列島ヲ包含スル

ノ慣例成立セリ然ルニ今日突然右兩顧問官

所説ノ如ク條文ニ書キ立ツルトキハ却テ紛

糾ヲ生スハレト考フ

議長(清浦) 讀會ヲ省略シテ直ニ採決スヘシ先

ツ第一條ノミニ付採決セム修正案ニ賛成ノ

諸君ノ起立ヲ請フ

(少數否決)

議長(清浦) 其ノ他原案ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ

請フ

(全會一致可決)

議長(清浦) 次ニ

判任文官特別任用令

三等郵便局長等ノ任用ニ關スル件

以上二件ヲ一括シテ議題トス判任文官特別

任用令ニ付テハ書記官長ノ修正意見アリ其

ノ修正シタルモノヲ以テ原案ト為ス第一讀

會ヲ開キ朗讀ヲ省略シ直ニ審査報告ヲ為サ

シム

報告員(二上) 謹テ此ノ二件ヲ審査スルニ

第一 判任文官特別任用令

曩ニ本院ニ於テ奏任文官特別任用令審議

ノ際當局ヨリ言明アリタル通り本案ヲ以

テ判任文官ノ特別任用ニ關スル多數ノ規

定ヲ一括整理セムトスルモノニシテ其ノ

要目大凡左ノ如シ

(一)從來各廳ノ警部、警部補、看守長及消防士

ニ付テハ各別ニ特別任用ノ規定アリ今

回之ヲ併合統一ス即チ



刑部  
法部  
院

(イ)各廳ノ警部及警部補ハ二年以上各廳  
巡查ノ職ニ在リ學術試験及實務考査  
ニ合格シタル者ヨリ之ヲ任用スルコ  
トヲ得外務省ノ警部及警部補ハ此ノ  
本則ニ依ルノ外外務書記生タル資格  
ヲ有スル者又ハ二年以上外國在勤巡  
査ノ職ニ在リ普通試験委員ノ銓衡ヲ  
經タル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得  
又蕃務ニ従事スル臺灣總督府部内ノ  
警部及警部補ハ右ノ本則ニ依ルノ外

二年以上蕃地ニ於テ蕃務ニ従事スル  
臺灣總督府部内ノ巡查雇員又ハ囑託  
員ノ職ニ在リ普通試験委員ノ銓衡ヲ  
經タル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得  
(ロ)各廳看守長ハ二年以上各廳看守ノ職  
ニ在リ學術試験及實務考査ニ合格シ  
タル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得但  
海軍監獄看守長ニ付テハ海軍監獄官  
特別任用令第二條ニ別段ノ規定アリ  
直ニ之ヲ本業ニ包括スルコト能ハサ

ルカ故ニ同官ハ本案ノ規定ニ依ルノ  
外従来ノ規定ニ依リ之ヲ任用スルコ  
トヲ得ルモノト爲シ従来ノ規定ノ中  
本案ノ規定ト重複スル部分ヲ削除シ  
本案ノ趣旨ト符合セサル一照ヲ改正  
シ且現在不用ト認ムヘキ條項ヲ削除  
ス

(ハ)各廳消防士ハ各廳消防機關士ノ職ニ  
在リ若ハ二年以上判任官待遇ノ各廳  
消防手ノ職ニ在リ學術試験及實務考

査ニ合格シタル者又ハ各廳ノ警部若  
ハ警部補ノ職ニ在リタル者ヨリ之ヲ  
任用スルコトヲ得

以上各官ノ任用資格ハ各廳ニ共通有效  
ナルノ趣旨ニシテ甲廳ノ官ノ資格ヲ獲  
得シタル者ハ乙廳ノ當該官ニモ之ヲ任  
用スルコトヲ得ルモノトス而シテ前記  
各條ノ學術試験及實務考查ニ關スル規  
程ハ内地ニ在リテハ主管大臣、朝鮮ニ在  
リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總



督、關東州ニ在リテハ關東長官樺太ニ在  
リテハ樺太廳長官之ヲ定ム  
以上ノ規定ハ各廳同種ノ官ノ特別任用  
條項ヲ併合シ成ルヘク彼此ノ權衡ヲ保  
維セムトスルモノニシテ之ヲ現行規定  
ニ比較スレハ試驗及考査ヲ經ヘシト爲  
スコトニ於テ任用ノ條件ヲ加重スルモ  
ノナキニアラサルモ一般ニ任用資格ノ  
要件タル在職年限ヲ短縮シ其ノ資格ニ  
各廳共通ノ效力ヲ認ムルコト等ニ於テ

大體任用ノ條件ヲ輕減スルモノナリ

(二) 貴族院又ハ衆議院ノ守衛副長ハ三年以

上貴族院又ハ衆議院ノ守衛ノ職ニ在リ

普通試驗委員ノ銓衡ヲ經タル者ヨリ之

ヲ任用スルコトヲ得此ノ條項ハ現行規

定ニ比シ在職年限ヲ短縮スルモノナリ

(三) 從來各廳ノ稅關監吏、森林主事、通信書記

補及稅務吏、爲替貯金局書記補、通信局書

記補、朝鮮總督府通信書記補、臺灣總督

府通信手等下級ノ判任官ニ付テハ各別

ニ特別任用ノ規程アリ今回之ヲ併合  
一ス即チ此等各官ハ内地ニ在リテハ其  
ノ所属廳ノ主管大臣朝鮮ニ在リテハ朝  
鮮總督臺灣ニ在リテハ臺灣總督關東州  
ニ在リテハ關東長官樺太ニ在リテハ樺  
太廳長官ノ定ムル規程ニ依リ之ヲ任用  
スルコトヲ得

此ノ條項ハ任用ノ規程ヲ各省大臣等ニ  
委任スル右官ヲ集メテ一條ニ置クモノ  
ニシテ現行規定ニ於テモ右各官ハ大縣

各省大臣等ノ定ムル規程ニ依リ之ヲ任  
用スルコトヲ得ルモノナリ

(四) 判任文官ノ特別任用ニ關スル勅令十八

件ヲ廢止シ奏任文官特別任用令附則第  
二項但書ノ判任文官ノ特別任用ニ關ス  
ル經過規定及大正九年勅令第百六十一  
號第五條第二項ノ鐵道局書記ノ特別任  
用ニ關スル經過規定ヲ廢止シ其ノ他判  
任文官ノ任用ニ關スル數多ノ條項ヲ廢  
止ス是レ本案各條ニ於テ其ノ規定ヲ設



ケタルカ故ニ不用ニ歸シタルニ因ル  
ノアルモ又右諸規程廢止ノ結果數多ノ  
官ニ付ラハ全ク特別任用ノ規定ナキニ  
至ル蓋シ近ク文官任用令第六條ノ判任  
文官ノ普通任用ニ關スル規定ヲ改正シ  
テ其ノ條件ヲ輕減シタルノ結果強ク其  
ノ特別任用ノ規定ヲ存置スルノ要ナキ  
コトト爲リタルナリ

(五)海軍通譯官及陸軍通譯官ノ特別任用ニ  
關スル規程ヲ廢止ス是レ此ノ二官ハ特

別ノ學術技藝ヲ要スル文官ニシテ專ラ  
文官任用令第七條ニ依リ任用セラレハ  
キモノナルカ故ニ此ノ機會ヲ利用シテ  
右二勅令ヲ廢止スルモノナリ

第二 三等郵便局長等ノ任用ニ關スル件

從來内地ノ三等郵便局長及三等電信局長、  
朝鮮總督府郵便所長、關東廳郵便所長並樺  
太廳特定郵便局長ノ任用ニ付テハ各別ノ  
規程アリ即チ右各官ハ逋信大臣、朝鮮總督、  
關東長官又ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依

リ之ヲ任用スルモノトシ又此等各官ハ持  
殊ノ官ナルカ故ニ其ノ在職年數ハ任用ニ  
關スル規定ノ適用ニ付テハ之ヲ判任文官  
ノ在職年數ト看做ササルモノトス臺灣總  
督府三等郵便局長ニ付テハ別段ノ任用規  
定ナク明治三十一年勅令第百九十三號ニ  
臺灣總督府判任職員ハ同令ニ列擧スル數  
官ヲ除クノ外當分ノ内文官任用令ノ條項  
ニ拘ラス之ヲ任用スルコトヲ得ル旨ノ規  
定アルニ依リ現ニ自由ニ之ヲ任用セリ本

案ニ於テハ以上各官ノ任用規定ヲ併合シ  
内地ノ三等郵便局長及三等電信局長ハ通  
信大臣ノ定ムル規程ニ依リ之ヲ任用シ其  
ノ在職年數ハ任用ニ關スル規定ノ適用ニ  
付テハ之ヲ判任文官ノ在職年數ニ非サル  
モノト看做スコトヲ定メ此ノ規定ヲ朝鮮  
總督府郵便所長、臺灣總督府三等郵便局長、  
關東廳郵便所長及樺太廳特定郵便局長ノ  
任用及在職年數ニ付準用スルモノトス即  
チ臺灣總督府三等郵便局長ヲ除クノ外各



官ノ任用規定ハ形式カ統一セラレタル  
止マリ實質ハ從來ト異ナル所ナク臺灣總  
督府三等郵便局長ニ付テハ其ノ地位及職  
掌相似タルカ故ニ新ニ同様ノ規定ヲ適用  
スルモノナリ  
按スルニ以上二件トモ類似ノ規程ヲ併合統  
一スルハ法規整理ノ趣旨ニ於テ妥當ノ措置  
ト謂フヘク其ノ規定ノ内容ニ於テモ略々支障  
ノ虞ナキモノト認ム但判任文官特別任用令  
第四條ニ於テ前三條ノ學術試驗及實務考查

ニ關スル規程ハ當該判任文官所属廳ノ主管  
大臣之ヲ定ムト言フハ試驗及考查ノ效力ヲ  
各廳ニ共通ナラシムルノ意義ヲ示スニ十分  
ナラサルノ懸アリ之ヲ改メテ該規程ハ當該  
試驗及考查ヲ行フ廳ノ主管大臣之ヲ定ムト  
為サハ蓋シ右ノ旨意釋然タルモノアラム又  
同令附則ニ今回廢止スルハキ特別任用規定ノ  
中ニ海軍通譯官及陸軍通譯官ニ關スルモノ  
ヲ舉グルニ於テハ之ト同様ニ明治二十九年  
勅令第三百六號陸軍通譯生ニ關スル件ニ掲

クル同官ノ特別任用規定ヲモ舉ケサルヘカ  
ラス即チ附則ニ一項ヲ追加レテ右勅令第三  
條ヲ削除スル旨ヲ規定スルコト當然ナリ  
之ヲ要スルニ前示ニ件ハ以上ノ修正ヲ附シ  
テ可決セラルヘキモト思料ス而レテ該修  
正ニ付テハ當局ニ於テ何等異議ナキ旨ノ言  
明ヲ得タリ  
右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス  
議長(清浦) 讀會ヲ省略シテ直ニ採決セム原案  
賛成ノ諸君ノ起立ヲ請フ

(全會一致可決)

(内閣委員退席)

○

(宮内大臣及宮内省委員着席)

議長(清浦) 次ニ勲一等芳曆王殿下ニ家名ヲ賜  
ヒ華族ニ列セラルルノ件ニ移ル第一讀會ヲ  
開キ朗讀ヲ省略シ直ニ審査報告ヲ爲サシム  
報告員(二上) 謹テ本件ヲ審査スルニ芳曆王殿  
下ハ山階宮武彦王殿下ノ御弟ニ當ラセラル  
本年七月五日ヲ以テ成年ニ達セラレタルカ



明治四十年二月十一日勅定ノ皇室典範増補  
第一條及皇族身位令第二十五條ノ規定ニ依  
リ臣籍降下ノ旨御情願アラセラルタルニ付  
本案ヲ以テ右情願ヲ允シ山階ノ家名ヲ賜ヒ  
テ華族ニ列セシメラレタスルモノナリ而  
シテ右殿下ノ降下ニ際シ相當ノ爵位ヲ賜ヒ  
且其ノ家格ヲ維持スルニ必要ナル資産ヲ給  
セラルルコトニ付テハ宮内當局ニ於テ慎重  
審議ノ結果既ニ其ノ成業ヲ獲タリト言フ即  
チ候爵ヲ授ケ従四位ニ叙シ且世襲財産ノ原

資トシテ金百萬圓及邸宅造營其ノ他一家創  
立ノ費用トシテ金三十五萬圓ヲ賜フ見込ナ  
ル趣ナリ  
按スルニ今回芳曆王殿下ノ臣籍降下ハ其ノ  
御情願ニ依ルモノニシテ曩ニ本院ノ御諮詢  
ヲ經尋テ皇族會議ノ御諮詢ヲ經テ本院決議  
上奏ノ通り勅定アラセラルタル皇族ノ降下  
ニ關スル施行準則ノ適用ニ屬スルモノニ非  
サルモ同殿下ハ右施行準則ノ規定ニ依レハ  
勅旨ヲ以テ臣籍ニ降下セシメララルヘキ身位

ニ當ラセラルル御方ナリ旁、其ノ御情願ハ  
許アラセラレ然ルヘキ義ト存ス又本案ノ形  
式ハ勅書ニシテ其ノ文案ハ先年輝久王殿下  
降下ノ場合ニ於ケル例ト大體同様ナリ即チ  
本案ハ此ノ儘可決セラルルヘキモノト思料ス  
右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

三十四番(富井)

本案ノ勅書案ニ依レハ賜フニ  
山階ノ家名ヲ以テストアリ宮號山階ニモテ  
家名モ亦山階ナリ同一ノ名稱ヲ用ヒ紛ラハ  
シキ感アリ差支ナキカ

中村宮内大臣

此ノ點ニ付テハ當局ニ於テ詮  
議ノ結果山階ト云フ家名ヲ賜ヒ差支ナシト  
考ヘタリ

十九番(細川)

本案ニ付テハ別ニ異論ナシ直ニ  
採決アラハコトヲ希望ス

議長(清浦)

別ニ御發議ナキニ付讀會ヲ省略シ  
テ直ニ採決セム原案賛成ノ諸君ノ起立ヲ請  
フ

(全會一致可決)

(午前十一時五十分閉會)



副議長子爵 清浦奎吾

書記官長 山口兵衛

書記官

八江貫一

村上恭一

大正九年七月十四日

秘

臺灣總督府官制中改正件

臺灣總督府地方官官制改正件

臺灣總督府州知事及臺灣總督府廳長

張之命令(特別)關六件

文官任用令中改正件

奏任文官特別任用令中改正件

臺灣總督府(特別)任用件

修正

修正

勅令第 號

臺灣總督府官制中左ノ通改正ス

第一條中「臺灣及澎湖列島」ヲ「臺灣」ニ改ム

第十條中「廳長」ヲ「知事又ハ廳長」ニ改ム

第十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

殖産局ニ營林所及其ノ出張所ヲ置キ總督ノ指定スル國有林野ノ造林ニ關スル

事務、其ノ國有林野ノ産物ノ採取、製造、加工及販賣ニ關スル事務並之ニ附帶スル

鐵道、道路及其ノ鐵道ニ依ル貨客ノ運輸營業ニ關スル事務ヲ掌ラシム

第十九條中「十六人」ヲ「二十人」ニ、「四十九人」ヲ「五十人」ニ、「四百六十一人」ヲ「四百七十七人」

ニ改メ「警務官」專任三人 奏任「及」警視 專任二人 奏任ヲ削リ「財務局事務官

」專任三人 奏任「フ次ニ」殖産局事務官 專任一人 奏任ヲ加フ

第二十二條 警務局長ハ總督ノ特ニ命スル場合ニ限リ警察事務ノ執行ニ關シ總

督及總務長官ノ命ヲ承ケ廳長、警務部長及警視以下ノ警察官吏ヲ指揮監督ス



第二十六條 蕃務警視ハ警務局ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ蕃務ヲ掌ル

蕃務警視ハ蕃務警察事務ノ執行ニ關シ警務局長ノ命ヲ承ケ警部以下ノ警察官吏ヲ指揮監督ス

第二十六條ノ五 殖産局事務官ハ殖産局ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ殖産局ノ事務ヲ掌ル

第二十九條ノ二ヲ削ル

第三十一條中其ノ事務ヲ蕃務ニ改ム

第三十一條ノ四中及獸疫血清製造所ヲ獸疫血清製造所營林所及營林所出張所ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府營林局官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際臺灣總督府營林局ノ技師書記又ハ技手ニシテ現ニ其ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各臺灣總督府ノ技師書記又ハ技手ニ同官等俸

給ヲ以テ任セラレタルモノトス

勅令第 號 臺灣總督府地方官官制

第一條 臺灣ニ左ノ州及廳ヲ置ク

臺北州

新竹州

臺中州

臺南州

高雄州

臺東廳

花蓮港廳

州及廳ノ位置及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

第二條 州及廳ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク

知事 五人

勅任

廳長 二人

奏任



事務官	十七人	兼任
理事官	專任二十九人	兼任
警視	專任二十一人	兼任
技師	專任十九人	兼任
視學	專任十二人	兼任
屬	專任四百六十二人	兼任
警部	專任二百六十一人	兼任
技手	專任百八十六人	兼任
通譯	專任二十人	兼任
警部補	專任二百九十八人	兼任
稅務吏	專任百六十二人	兼任
森林主事	專任百四十二人	兼任

前項職員ノ中知事事務官及技師ハ州ニ廳長ハ廳ニ之ヲ置ク

第三條 理事官ハ臺北州及臺南州ニ在リテハ各專任六人其ノ他ノ州ニ在リテハ各專任五人廳ニ在リテハ各專任一人ヲ以テ定員トス

警視ニシテ各州又ハ各廳ニ在勤スル者ハ專任一人支廳長ニ充ツル者ハ三人警察署長ニ充ツル者ハ四人郡ニ配置スル者ハ七人ヲ以テ定員トス

技師ハ臺北州ニ在リテハ專任五人臺中州及臺南州ニ在リテハ各專任四人其ノ他ノ州ニ在リテハ各專任三人ヲ以テ定員トス

前條ニ掲クル判任官ノ各州及各廳ニ於ケル定員ハ臺灣總督之ヲ定ム

第四條 高等官官等俸給令第二十三條第三項ノ規定ニ依リ俸給最低額以下ヲ受クル技師及判任官俸給令第六條ノ規定ニ依リ俸給最低額以下ヲ受クル技師ハ前二條ノ定員ノ外トス

第五條 知事又ハ廳長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ法令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス

第六條 知事又ハ廳長ハ部内ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ管

得

第一節 一般又ハ其ノ一部ニ州令又ハ廳令ノ發スルコトヲ

得

事務官	十人	奏任
理事官	專任二十九人	奏任
警視	專任二十一人	奏任
技師	專任十九人	奏任
視學	專任十二人	判任
屬部	專任四百六十二人	判任
警部	專任二百六十一人	判任
技手	專任百八十六人	判任
通譯	專任二十人	判任
警部補	專任二百九十八人	判任
稅務吏	專任百六十二人	判任
森林主事	專任百四十二人	判任

前項職員ノ中知事事務官及技師ハ州ニ廳長ハ廳ニ之ヲ置ク

第三條 理事官ハ臺北州及臺南州ニ在リテハ各專任六人其ノ他ノ州ニ在リテハ各專任五人廳ニ在リテハ各專任一人ヲ以テ定員トス

警視ニシテ各州又ハ各廳ニ在勤スル者ハ專任一人支廳長ニ充ツル者ハ三人警察署長ニ充ツル者ハ四人郡ニ配置スル者ハ七人ヲ以テ定員トス

技師ハ臺北州ニ在リテハ專任五人臺中州及臺南州ニ在リテハ各專任四人其ノ他ノ州ニ在リテハ各專任三人ヲ以テ定員トス

前條ニ掲クル判任官ノ各州及各廳ニ於ケル定員ハ臺灣總督之ヲ定ム

第

第

第

第七條 知事又ハ廳長ハ管内ノ靜謐ヲ維持スル爲兵力ヲ要スルトキハ之ヲ臺灣

三



總督ニ具狀スヘシ但シ非常急變ノ場合ニ際シテハ直ニ當該地方ノ陸海軍ノ司令官ニ兵力ノ使用ヲ請求スルコトヲ得

第八條 知事又ハ廳長ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ奏任官ノ功過ヲ臺灣總督ニ具狀ス

判任官ノ進退ハ知事ハ自ラ之ヲ行ヒ廳長ハ臺灣總督ニ之ヲ具狀ス

第九條 知事ハ郡守市尹又ハ警察署長ノ爲ス處分ニシテ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

廳長ハ街庄長ノ爲ス處分ニ付テハ前項ノ例ニ依リ之ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第十條 知事事故アルトキハ官等ノ順序ニ從ヒ事務官其ノ職務ヲ代理ス

廳長事故アルトキハ官等ノ順序ニ從ヒ理事官又ハ廳在勤ノ警視其ノ職務ヲ代理ス

前二項ノ規定ニ依リ職務ヲ代理スル者ナキ場合ニ於テハ臺灣總督ハ當該ノ州

又ハ廳ノ高等官ノ一人ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシム

知事又ハ廳長ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ部下ノ官吏ヲシテ臨時代理セシムルコトヲ得

第十一條 知事ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡守市尹又ハ警察署長ニ委任スルコトヲ得

第十二條 州ニ知事官房内務部及警務部ヲ置ク其ノ事務ノ分掌ハ臺灣總督之ヲ定ム

應ニ於ケル事務ノ分掌ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十三條 事務官ハ内務部又ハ警務部ノ部長ト爲ル知事ノ命ヲ承ケ部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十四條 警務部長ハ警察及衛生ノ事務ノ執行ニ關シ知事ノ命ヲ承ケ郡守警視警部警部補及巡查ヲ指揮監督ス

第十五條 理事官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十六條 警視ハ上官ノ命ヲ承ケ警察及衛生ノ事務ヲ掌リ部下ノ警部警部補及

巡查ヲ指揮監督ス

第十七條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十八條 視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他教育ニ關スル事務ニ從事ス

第十九條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十條 警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生ノ事務ニ從事シ部下ノ警部補及巡查ヲ指揮監督ス

第二十一條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十二條 通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第二十三條 警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生ノ事務ニ從事シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第二十四條 稅務吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ徵稅ニ關スル事務ニ從事ス

第二十五條 森林主事ハ上官ノ指揮ヲ承ケ林野ノ取締及保護ニ從事ス

第二十六條 州及廳ニ警察醫ヲ置ク奏任官又ハ判任官ノ待遇トス

警察醫ノ定員ハ州及廳ヲ通シテ奏任官待遇者ニ在リテハ六人以内判任官待遇者

ニ在リテハ八人以内トシ其ノ各州及各廳ニ於ケル定員ハ臺灣總督之ヲ定ム

警察醫ハ上官ノ命ヲ承ケ警察及衛生ニ關スル醫務ニ從事ス

第二十七條 州及廳ニ巡查ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡查ニ關スル規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

第二十八條 廳長ハ廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲臺灣總督ノ認可ヲ受ケ支廳ヲ置クコトヲ得

支廳長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

支廳長事故アルトキハ上席官吏其ノ職務ヲ代理ス

第二十九條 市ニ警察署ヲ置ク

知事ハ必要アリト認ムルトキハ警察署ノ下ニ警察分署ヲ置クコトヲ得

警察署ノ名稱位置及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

警察分署ノ名稱位置及管轄區域ハ知事之ヲ定ム

第三十條 警察署長ハ警視警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ



警察署長又ハ警察分署長ハ上官ノ指揮監督ヲ承ケ部内ノ警察及衛生ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第三十一條 知事ハ徵稅ニ關スル事務ヲ分掌セシムル爲臺灣總督ノ認可ヲ受ケ

稅務出張所ヲ置クコトヲ得

稅務出張所長ハ理事官又ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ

第三十二條 州ニ郡及市ヲ置ク

郡ノ數ハ四十七市ノ數ハ三トス

郡及市ノ名稱位置及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

第三十三條 郡及市ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク

郡守	四十七人	奏任
市尹	三人	奏任
理事官	專任三人	奏任
視學	專任五十人	判任
屬	專任四百人	判任

技手 專任五十人 判任

前項職員ノ中郡守ハ郡ニ市尹及理事官ハ市ニ之ヲ置ク

第一項職員ノ外臺北市ニ技師專任一人ヲ置ク奏任トス

臺灣總督ハ州ノ警視、警部、警部補又ハ巡查ヲ郡ニ配置スルコトヲ得

第三十四條 各市ニ於ケル理事官ノ定員ハ專任一人トス

各郡及各市ニ於ケル視學、屬及技手ノ定員ハ臺灣總督之ヲ定ム

第三十五條 第四條ノ規定ハ郡及市ノ技師及技手ノ定員ニ付之ヲ準用ス

第三十六條 郡守又ハ市尹ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ所部ノ官吏ヲ指揮監督ス

郡守ハ警察及衛生ノ事務ニ關シ郡ニ配置セラレタル警視、警部、警部補及巡查ヲ指揮監督ス

第三十七條 郡守又ハ市尹ハ其ノ指揮監督スル判任官ノ進退ヲ知事ニ具狀ス

第三十八條 郡守ハ街庄長ノ爲ス處分ニシテ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ

犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第三十九條 郡守又ハ市尹事故アルトキ其ノ職務ヲ代理スル官吏ハ知事之ヲ指定ス

郡守又ハ市尹ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ部下ノ官吏ヲシテ臨時代理セシムルコトヲ得

第四十條 郡又ハ市ニ於ケル事務ノ分掌ハ知事之ヲ定ム

第四十一條 市ノ理事官ハ市尹ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第四十二條 市ノ技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第四十三條 郡又ハ市ノ視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他教育ニ關スル事務ニ従事ス

第四十四條 郡又ハ市ノ屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第四十五條 郡又ハ市ノ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

第四十六條 郡ニ街又ハ庄ヲ置ク但シ臺灣總督ノ指定スル蕃地ニハ之ヲ置カサルコトヲ得

臺灣總督ハ地方ノ狀況ニ依リ應ニ街又ハ庄ヲ置クコトヲ得

街庄ノ名稱及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

街ニ街長庄ニ庄長ヲ置ク判任官ノ待遇トス但シ街長ハ十人ヲ限リ之ヲ委任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

街庄長ハ上官ノ指揮監督ヲ承ケ街庄内ノ行政事務ヲ補助執行ス

街庄長ニ關スル規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

附 則

本令ハ大正九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ街庄ニ關スル規定ハ同年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年勅令第二百十七號ハ大正九年九月三十日限リ之ヲ廢止ス別ニ定ムルモノヲ除ク外他ノ勅令中臺灣總督府ノ應ニ關スル規定ハ州又ハ應ニ關スル規定トシ廳長ニ關スル規定ハ知事又ハ廳長ニ關スル規定トス



勅令第 號

臺灣總督府州知事ハ其ノ發スル命令ニ二月以下ノ懲役若ハ禁錮、拘留七十圓以下ノ罰金又ハ料科ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

臺灣總督府廳長ハ其ノ發スル命令ニ拘留又ハ料科ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

文官任用令中左ノ通改正ス

第三條ノ二中「臺灣總督府營林局長」ヲ削ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



勅令第 號

奏任文官特別任用令中左ノ通改正ス

- 一 臺灣總督府覆審法院書記長ヲ臺灣總督府法院書記長ニ改メ臺灣總督府廳長ヲ
- 一 次ニ臺灣總督府郡守ニ臺灣總督府市尹ニ臺灣總督府州理事官ニ臺灣總督府廳理事
- 一 官ニ臺灣總督府市理事官及臺灣總督府州警視ヲ臺灣總督府蕃務警視ノ次ニ關
- 一 東廳理事官ヲ加ヘ臺灣總督府廳事務官ヲ削ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

臺灣總督府蕃務警視ニシテ航空機ニ關スル事務ニ従事スル者ハ陸軍將校又ハ海軍將校ニシテ航空機ニ關スル學識經驗ヲ有スル者ノ中ヨリ高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ陸軍又ハ海軍ノ現役將校ヲ任用スル場合ニ於テハ其ノ官等ハ高等文官轉任ノ例ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



勅令第

號

判任文官特別任用令

第一條 各廳ノ警部及警部補ハ二年以上各廳

巡查ノ職ニ在リ學術試驗及實務考査ニ合格

シタル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

外務省ノ警部及警部補ハ前項ノ規定ニ依ル

ノ外外務書記生タル資格ヲ有スル者又ハ二

年以上外國在勤巡查ノ職ニ在リ普通試驗委

員ノ銓衡ヲ經タル者ヨリ之ヲ任用スルコト

ヲ得

蕃務ニ従事スル臺灣總督府部内ノ警部及警部補ハ第一項ノ規定ニ依ルノ外二年以上蕃地ニ於テ蕃務ニ従事スル臺灣總督府部内ノ巡查、雇員又ハ囑託員ノ職ニ在リ普通試験委員ノ銓衡ヲ經タル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第二條 各廳看守長ハ二年以上各廳看守ノ職ニ在リ學術試験及實務考查ニ合格シタル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第三條 各廳消防士ハ各廳消防機關士ノ職ニ

在リ若ハ二年以上判任官待遇ノ各廳消防手ノ職ニ在リ學術試験及實務考查ニ合格シタル者又ハ各廳ノ警部若ハ警部補ノ職ニ在リタル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第四條 前三條ノ學術試験及實務考查ニ關スル規程ハ當該判任文官所屬試験及考查ヲ行フ廳ノ主管大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ定ム

第五條 貴族院又ハ衆議院ノ守衛副長ハ三年



以上貴族院又ハ衆議院ノ守衛ノ職ニ在リ普  
通試験委員ノ銓衡ヲ經タル者ヨリ之ヲ任用  
スルコトヲ得

第六條 左ニ掲クル判任文官ハ其ノ所屬廳ノ  
主管大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在  
リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、  
樺太ニ在リテハ樺太廳長官ノ定ムル規程ニ  
依リ之ヲ任用スルコトヲ得

各廳稅關監吏  
各廳森林主事

為替貯金局書記補

逓信局書記補

各廳通信書記補

朝鮮總督府逓信書記補

臺灣總督府通信手

各廳稅務吏

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治二十四年勅令第百九十二號

明治二十六年勅令第二百九號

清國及朝鮮國在勤警部特別任用令

明治二十九年勅令第三百七十四號

海軍通譯官特別任用令

明治三十年勅令第三百八十一號

明治三十一年勅令第三百九十三號

稅關事務官補監視及監吏特別任用令

明治三十三年勅令第三百三十四號

臺灣總督府稅關屬特別任用令

明治三十六年勅令第二百八十七號

臺灣總督府通信屬及通信手特別任用令

臺灣總督府警部警部補特別任用令

警部補特別任用令

關東都督府警部警部補特別任用令

明治四十三年勅令第三百九十八號

朝鮮總督府及所屬官署判任官特別任用令

朝鮮總督府稅關書記及監視特別任用令

警部消防士特別任用令

大正七年勅令第二百八十二號

奏任文官特別任用令附則第二項但書及大正九



年勅令第百六十一號第五條第二項ヲ削ル  
外國在勤警部及巡查任用及支給規則第二條第  
一項ヲ削ル

陸軍監獄官特別任用令第四條ノ規定ハ其ノ效  
力ヲ失フ

海軍監獄官特別任用令第二條中第五第六ニ該  
ル者ヲ第五ニ該ル者ニ三年以上海軍監獄看守

又ハ「三年以上」ニ改メ同條第六號ヲ削ル  
明治二十九年勅令第三百六號第三條ヲ削ル

従前ノ規定ニ依ル考查及試験ニ合格シタル者

ハ本令中之ニ相當スル學術試験及實務考查ニ

合格シタル者ト看做ス但シ關東廳監吏ノ考查

及試験ニ合格シタル者ハ關東廳看守長ノ學術

試験及實務考查ニ合格シタル者ト看做ス

本令施行ノ際現ニ臺灣總督府地方廳ノ林務手

ノ職ニ在ル者ハ之ヲ臺灣總督府地方廳ノ森林

主事ニ任用スルコトヲ得

勅令第 號

三等郵便局長及三等電信局長ハ逋信大臣ノ定



ムル規程ニ依リ之ヲ任用ス  
三等郵便局長及三等電信局長ノ在職年數ハ任  
用ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ之ヲ判任文官  
ノ在職年數ニ非サルモノト看做ス  
前二項ノ規定ハ朝鮮總督府郵便所長、臺灣總督  
府三等郵便局長、關東廳郵便所長及樺太廳特定  
郵便局長ノ任用及在職年數ニ付之ヲ準用ス但  
シ遞信大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、  
臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關  
東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ行フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

大正五年勅令第七十三號

大正五年勅令第八十六號

勅 書 案

朕皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ茲ニ故菊  
麿王第二子勲一等芳麿王ノ情願ヲ允レ賜フニ  
山階ノ家名ヲ以テシ華族ニ列セシム